

# 医療ジャーナリズムと 福祉ジャーナリズムと



朝日新聞科学部記者⇒科学部次長⇒論説委員(福祉・医療・年金担当)

⇒大阪大学大学院ソーシャルサービス論

⇒この大学院で医療福祉ジャーナリズム分野

福祉と医療・現場と政策の志の縁結び係&小間使い

ゆきさん、こと、大熊由紀子

ジャーナリストの「財産」は  
さまざまな分野の

誠実な「家庭教師」たち

朝日新聞を退職したとき

筆まめ」に6958人

年賀状約3000人

そして今、「えにしメール」を受けてくださる方

18国6000人余



# 由紀子さんの旅立ちをお祝いし、新たな縁を結ぶ会

2001.5.12 プレスセンターホール

## 呼びかけ人

### (当事者ネットワーク)

池田省三(介護の社会化を進める一万人市民委員会)  
勝村久司(医療情報の公開・開示を求める市民の会)  
川内美彦(障害をもつ人の権利リーガルアドボカシー)  
梶坊和雄(老いを共に楽しむネットワーク)  
佐々木信行(ピープルファーストをはなしあおう会)  
佐藤さみよ(ベンチレーター使用者ネットワーク)  
高岡正(全日本難聴者・中途失聴者団体連合会)  
田中徹二(障害分野NGO連絡会)  
多田宮子(さくら会)  
芳賀優子(弱視者問題研究会)  
樋口恵子(高齢社会をよくする女性の会)  
樋口恵子(全国自立生活センター協議会・JIL)  
山崎多美子(全国精神障害者団体連合会・ぜんせいれん)  
山田昭義(障害者インターナショナルJPI)  
渡辺啓二(ジョイプロジェクト)

### (支援ネットワーク)

池田昌弘(宅老所・グループホーム全国ネットワーク)  
伊藤哲寛(精神医療をよくする市民ネットワーク)  
丸岡賢剛(全国地域生活支援ネットワーク)  
熊谷崇(日本ヘルスケア歯科研究会)  
小林洋二(患者の権利法をつくる会)  
菅原弘子(福祉自治体ユニット)  
高橋儀平(福祉のまちづくり研究会)  
高見国生(呆け老人をかかえる家族の会)  
坪井栄孝(女性・子ども・命・未来を守る会)  
藤井克徳(共同作業所全国連絡会)  
藤田康幸(医療改善ネットワーク)  
別府宏園(正しい治療と薬の情報)  
星川安之(共用品を広めるネットワーク)  
山岡義典(日本NPOセンター)  
リャン・スンチ(日本ホスピス・在宅ケア研究会)

### (自治体)

浅野史郎・宮城県知事  
岩川 徹・鷹巣町長  
國松善次・滋賀県知事  
坂本祐之輔・東松山市長  
潮谷義子・熊本県知事  
福田昭夫・栃木県知事  
光武 顕・佐世保市長  
森 卓述・高浜市長

### (厚生行政)

伊藤雅治・医政局長  
篠崎英夫・健康局長  
余田寛陸・障害保健福祉部長  
堤修二・老健局長  
大塚義治・保険局長  
辻哲夫・年金局長  
中村秀一・審議官(医療保険担当)  
河幹夫・参事官(社会保障担当)  
山崎史郎・老健局計画課長  
香取照幸・内閣府参事官(社会システム担当)

### (朝日新聞社)

佐柄木俊郎(論説主幹)  
田辺功(編集委員)  
内山幸男(科学部長)  
臼井敏男(社会部長)  
吉田慎一(暮らし編集長)  
川名紀美(論説委員)  
伊中義明(論説委員)  
浜田秀夫(論説委員)  
高橋真理子(論説委員)  
和田公一(社会部)

60歳にちなんで60人の呼びかけ人が集まってくださいました。  
ところが、思わぬ文化の壁が。  
福祉と医療・現場と政策の文化を隔てる  
深くて広い河に橋を架けるなくては、と  
シホンジュウフリンズ語ですか。(医療のひと)  
EBBMってまわが武器。(福祉のひと)

## 福祉と医療・現場と政策の「えにし」をつなかくために

★「えにし」のHP(阪大の院生さんが作って下さいました)

★「えにし」メール(こちらも阪大の院生さんが。)

★「えにし」を結ぶ会

手話通訳/パソコン文字通訳

補聴器を使っている方がよく聴こえるように「磁気ルーフ」

見えない聞こえない参加者のために「指点字」

保育サービス

志の縁結び係&小間使い

ゆき



## 2013年 孤立無縁だった ユマニチュード

まるで魔法のようでした。千葉県にある特別養護老人ホーム。丸2年間、ベッドから起き上がろうとしなかった90歳の女性が、実に榮しげに、歌いながら歩き始めたのです。

氣位が高く職員が誘っても立腹するばかりだったその女性をわずか10分足らずで変えてしまったのは、フランス人男性のイブ・ジネストさん。ロゼット・マレスコッティさんと共に30年余かけてつくりあげたケア体系「ユマニチュード」の創始者です。

ユマニチュードは、「ケアすることとは何か」という問いに始まる人間哲学に裏打ちされた150を超えるテクニクスの集大成です。母国フランスでは、400以上の病院やケアホームで利用され、スイス、ドイツ、カナダと国境も越えています。

秘密は、誰でも身につけることができるワザにあります。例えば、見つめること、話しかけ続けること。前から静かに近づき、水平な視線で見つめて自己紹介し、これから何をするかを

### 「魔法」の高齢者ケア

フランス発 国境超える「ユマニチュード」



くらしの  
明日

私の社会保障論

大熊 由紀子 国際医療福祉大大学院教授

丁寧に説明します。声は優しく、静かに。言葉と尊敬を込めます。

最近、高齢者の入院が差したチューブ類を抜かうにと施される身体拘束者は叫んだり、暴れたり、それはスタッフを一振るう敵と思ひ込むか。見つめたり話しかけたのがおろそかだと「あなを在しない」と言っている。じで、人としての関係がみせん。

日本への紹介者、東京ンター総合内科医長の本子さんが「日本の患者さんに応用できる」と確信した入院中の80代の女性の姿を目の当たりにしたかた。1年近く、一言も発した女性に、通訳を介してストさんが接すると、目「手を上げてください」とその通りにしたばかりりがどう」と言ったので、体験した看護師たちは見えて患者さんが笑顔に

# 2015年のシンポ「女の度胸が医療を変える」でデビュー( ^ \_ ^ ) - ☆

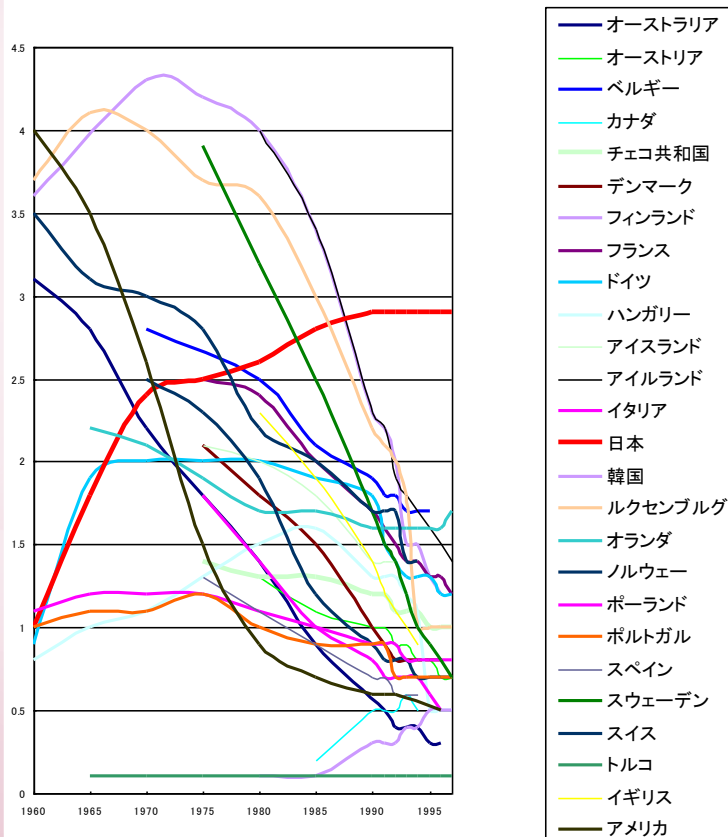


日本の人口は世界の2%足らず

精神科ベッドは世界の37%

空きベッドに認知症の人を⇒国際常識の対極にあるもの

人口1000人あたりの精神病床



いまだにかえられない  
厚い厚い壁



精神病院の身体拘束

人口あたり

アメリカの270倍、

オーストラリアの580倍

ニュージーランドの2000倍

# たちはだかる、政治の壁 日本精神病院協会山崎会長のFacebookより





# ジャーナリストに不可欠な鳥の目 .....男性を囲む4人が認知症の人



スウェーデンで

藤原瑠美さん撮影 ©RUMI Fujiwara Hospitality 2013 All Rights reserved

ジャーナリストに不可欠な歴史の目  
スウェーデンでも、1970年代は  
認知症の人が精神病院で縛られていました



藤原瑠美さんの博士論文から

©RUMI Fujiwara Hospitality 2013 All Rights reserved

# 診断は同じ「認知症」なのに、なぜ？

ここは居場所  
まわりは味方  
誇りをもてて

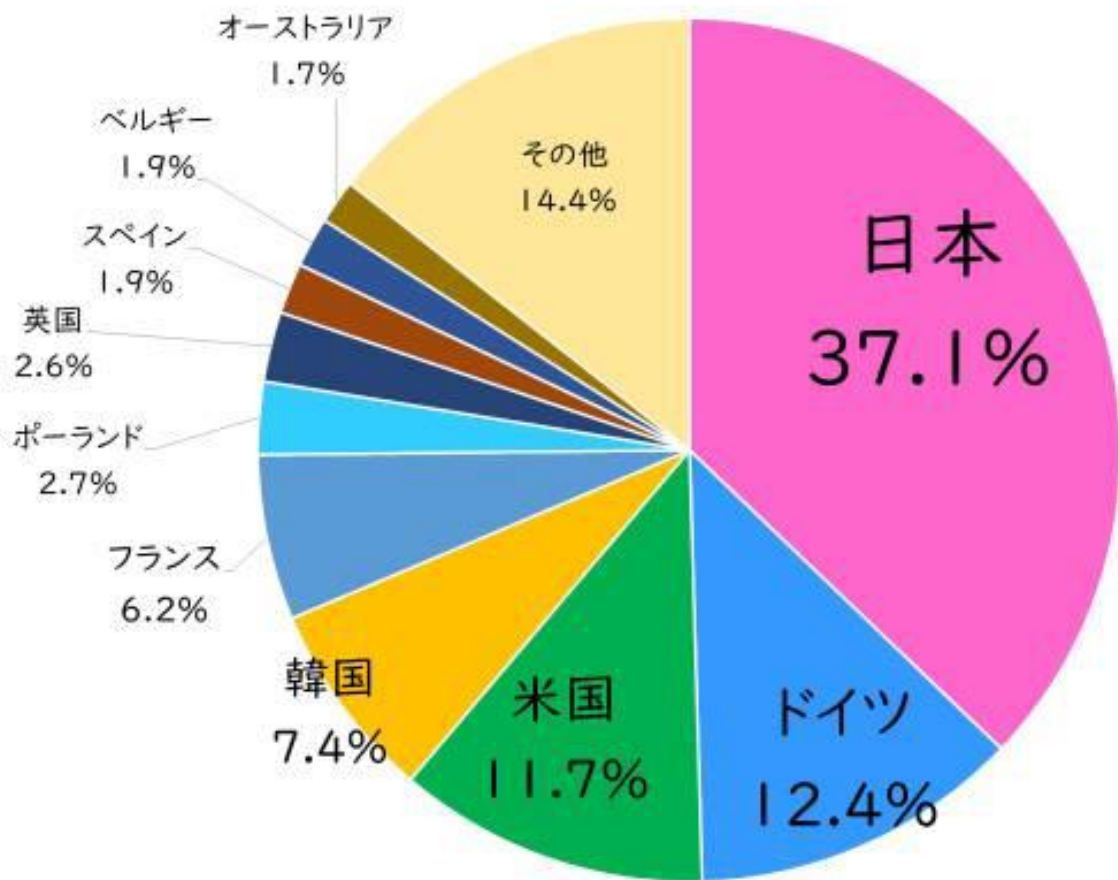


居場所と思えない  
味方がいない  
誇りを剥ぎ取られる

島根大学医学部臨床教授  
高橋幸男 doctor の  
論文にプラスして、ゆき作成

OECD加盟国

精神科病床数比較(推定)



作成：藤井克徳／佐野竜平  
(2022年8月)

ジャーナリスト  
に不可欠な  
疑う目

## ☆1968年和田心臓移植



心臓移植手術の終り、手術室で医師らと医師長、和田医師、近藤先生、  
山口義政君と握手

「ヘンだ」と直感!!!!!!!

人工心臓で蘇生??? W(°o°)w  
本命は、近藤芳夫さん  
専門誌に札幌医大は見かけなかった



山口義政くん

# ジャーナリストに不可欠な度胸



宮崎君の遺体に立ちふさぐ和田教授

和田教授の記者発表は、「3つの弁が3つともハシにも棒にもかからなかった」

真実は、札幌医大宮原内科が「弁を1つとりかえてほしい」と心臓内科へ

88日目に死去

必要なかった

宮崎信夫くん  
の心臓移植



# 鳥の目

科学部デスク⇒社説を担当することに。  
当時の厚生省の最大の課題は、西暦2000年  
わが国の寝たきり老人は100万人。手本はない



1985年

1985年

とにかく  
現場に



# 虫の目

↑  
日本  
「寝たきり老人」呼ばれ  
養老院カット

デンマーク  
独り暮らしでも自宅で暮らし、  
お洒落して外出

# 「ノーマライゼーション思想」

生みの父バンクミケルセンさん  
反ナチ運動で強制収容所へ  
その体験から

## 歴史の目

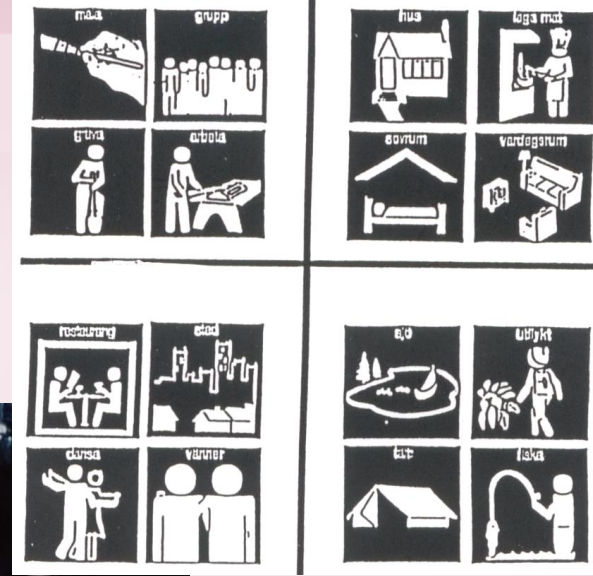
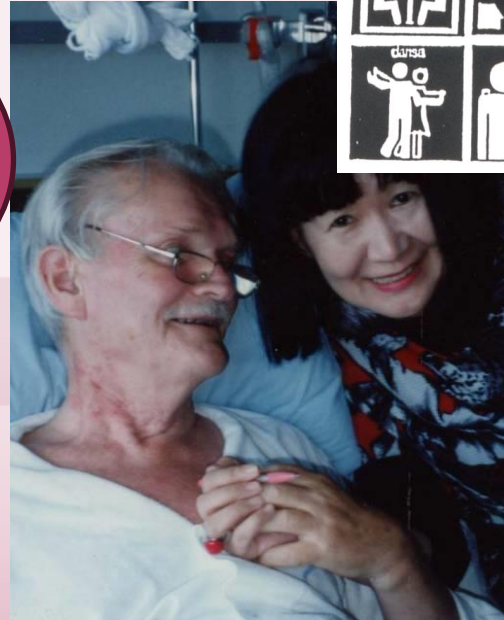
どんなに知的なハンディ  
キャップが重くても、

人は街の中のふつうの家で  
ふつうの暮らしを味わう**権利**  
があり

社会はその権利を実現する  
**責任**がある。

1959年法(デンマーク)

文献に  
書いてい  
ないこと  
をご本人  
に



「ふつうの生活  
とは

ふつうの家  
仕事や生きがい  
ふつうに余暇  
友達・恋人・家族



# 言葉をつくる・言葉を退治する

善玉コレステロール・悪玉コレステロール

終末期⇒人生の最終段階⇒人生の最終章

寝たきり老人⇒寝かせきりにされ廃用症候群になった犠牲者

失礼な言葉の数々...認知症患者・受け皿・徘徊・特養待機者・抑制

世を惑わす役所用語の「親玉」 大蔵省がつくった国民負担率

⇒国民連帯率・支えあい率・わかちあい率に

# 政策をつくるひととともに

「究極の自立支援システム」  
「オーフス方式」を実現した  
・ヨーロッパ筋ジストロフィ協会会長の

## クローさんの世直し7原則

- ◆ グチや泣き言では世の中は変えられない
- ◆ 従来の発想を創造的にひっくり返す
- ◆ 説得力あるデータにもとづいた提言を
- ◆ 市町村の競争心をあおる
- ◆ メディア、行政、政治家に仲間をつくる
- ◆ 名をすてて実をとる
- ◆ 提言はユーモアにつつんで(^\_-)-☆





2015. 無名だった丹野智文さんとパートナー 資料の袋詰めを楽しそうに

# 2022年の国際会議での丹野さんの報告

## In-Clinic PEER SUPPORT With a Couple

認知症と診断された直後は、不安と恐怖から落ち込みます。その時、経験者である認知症の人の出会い、語り合うことは、最も必要な支援で、これは認知症当事者でなければ、できない支援なのです」



東北大学医学部臨床教授  
山崎英樹 doctor のクリニックで。

スタンディングオベーションが！

# いままで との違い

基本資料+講座の対象や状況に応じて柔軟に対応できる講座。

資料にはご本人出演動画やご本人の登壇も！  
今後も柔軟に増やしていくことも可能！

## <認知症サポーター養成講座>

- “本人”が不参加。本人が聴くとつらい内容
- 医学モデルでの認知症の知識
- 認知症の症状のために困っている人を“サポートする”  
“ノウハウを知る”
- 地域で“見守り”していこう
- 受講した証明は“オレンジリング”



## <アクション講座>

- “本人”が参加できる  
講師にもなれる
- “生活モデル”で“生活障害”の理解
- 認知症体験者の“声”から、自分ごと
- 地域でともに生きるパートナー
- 地域で暮らすために“希望”を語る
- 参加者には“アクションガイド”

「認知症は怖い・なりたくない・自分にならない。けれど、優しくしてあげましょう」という誤った、時代遅れの認知症観を変えるために「認知症サポーター養成講座」から、「アクション講座」(世田谷版認知症サポーター養成講座) に厚生労働省の検討会に世田谷区が招かれて報告したときのスライドです。



国会議員にもなった著名な  
精神科医の精神病院の  
認知症治療棟

「入れ歯を飲み込んだら  
危険」とはずされ  
うつろな表情  
世田谷の  
東京都医学総合研究所で  
開かれた国際会議で、  
各国の研究者が驚愕

驚き・呆れる ←

日本は不思議な国  
海外の専門家が

感動する →

居場所

味方

誇り  
希望・役割



「デンマークの福祉大臣が  
感動したこの笑顔  
だれでも、必要な時に、  
必要なだけ」「年中無休」  
「手続きも簡略」。富山の「このゆびとーまれ」

待ち続ける

1985⇒1990⇒2000年  
介護保険法成立



## 物語 上 介護保険

いのちの尊厳のための  
70のドラマ

大熊由紀子



## 下 物語 介護保険

いのちの尊厳のための  
70のドラマ

大熊由紀子



# 受動喫煙防止法(2019)の場合②

## 【何が難しかったか】

- 子どもや呼吸器系その他の疾病を持っている人にとっては、たばこは怖いもの。他方で、スモーカーにとってはストレス解消の手段。
- 顧客サービスを提供する店にしてみると、たばこを吸う人が世の中に2割程度いて顧客となりうることで、店のメンテナンスにコストがかかることとの間に挟まる問題
- 既に多年にわたり吸っている人と、新たに吸い始める人との違い

「健康増進法の一部を改正する法律」により、「望まない受動喫煙」を防止するという基本的な考え方に立って、適切な経過措置を設けつつ、原則屋内禁煙とした。併せて、たばこ税を引き上げた。

待ち続ける

1985⇒2019年  
受動喫煙防止法成立

## たばこ戦争新時代

論説委員

大熊 由紀子

標的になる若い女性

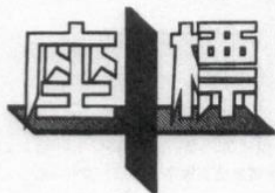
これは、まさに「戦争」である。口に出すか出さないかの違いはあるものの、日本全国、津

女浦々、両派のいるところ、即、戦場である。私の職場、論説委員室も例外ではない。

「たばこをやめて長生きしようなんて男は、男じゃない」「さっばりやめろ意志の強さこそ、男らしさの象徴だよ」

「一服のこのやすらぎが分からないなんて、気の毒に」このいやなおいが他人を苦しめているのに気づかないなんて無稽だなあ」

「吸わないと、社員の書き出しが浮かばないんだ」公署に厳しい論客が、たばこ公署に甘いのはおかしい。」



同志への裏切りを後めたく思いつつ、暴煙に成功にかけている元喫煙家「吸わないけれど、ボクは煙が気に入らないよ」といふ気配の派……戦線は複雑をきわめている。

こんな状況下で、たばこの罪状

# 煙に指定席」が

んでくる。たいていの場所では、たばこがで、テレビCMも自由、など

それで病気になるとうそぶいて、科学的には、まったく正しいとは証明ができていないという現状だ。

「先週は、日本列島は「限りのなく巨たな存在」(日本専門新聞の見出し)なのだ。標的は、将来なる若い左ちであら。

この四月大世に危機感を抱いた「ンスモーカーは、今年を」

「モ・タバコ」を定め、

を書くのは気が重たい。喫煙家の先駆者「私を吸うな」という愛は、まったくない。しかし、この四月から、戦況は新たな段階に入る。専売公社は、日本たばこ産業株式会社に衣替えし、積極商法に転ずる。自由化で、外国たばこもだれ

### 他人を脅かす煙

争点の一つは、ほこによる空気の汚れだが、日本専売社の長岡英樹氏は、民営化を前に記している。「他人のたばこ煙を吸わされて、

種類によって違ろが、たとえば、ロイヤル博士のグループは、このアメリカ立環境衛生科学研究所のDワードで恐ろしい現実を証明してみせ、米、英の医学専門誌に発表されて、たばこの煙にさらされた人は長てから、がんになりやすい」



# えにしHPでつなぐ「51の部屋」

このページは、<http://www.yuki-enishi.com/>  
「ゆきえにし」で検索して下さると、  
先頭に出てきます o(^o) (^o) (^o)

317404

えにしのページへようこそo(^o) (^o) (^o)

「えにし」の名の由来は、2001年5月、プレスセンターで開いて、  
「新たな縁(えにし)を結ぶ会」に遡ります。



一人のジャーナリストと縁があるという、  
ただ、それだけの縁で集ってくださった分野の違う方々の間に、  
不思議な、新たな縁が結ばれ、広がっていきました。

このホームページが、福祉と医療とまちづくり、  
そして、現場と政策の新たな縁結びにつながることを願って、  
少しずつ内容を充実してまいります。  
時々覗きにきてくださいね(^-^)\*

ご意見、お便りをお待ちしています。  
[dyz00573@nifty.com](mailto:dyz00573@nifty.com)へどうぞ！

大熊由紀子(朝日新聞論評委員会→版大)  
→国際医療福祉大学大学院・佛教大学社会福祉学部

更新履歴はこちら

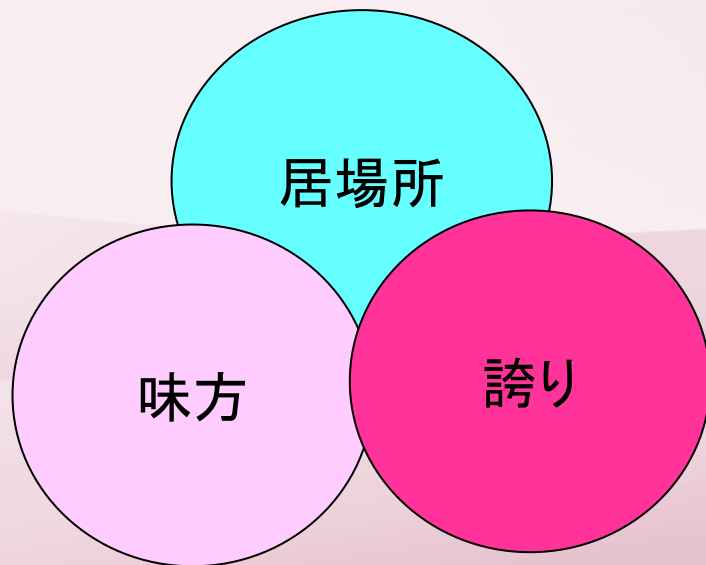
メニュー

私の社会保障論	2012/05/13	係き挑戦者の部屋-国内篇	2012/05/02
医療福祉と財源の部屋	2010/08/23	係き挑戦者の部屋-海外篇	2011/08/18
高齢福祉政策意欲の部屋	2009/05/07	係きした方を応援するため	2012/03/19
物語-介護保険	2010/09/13	世世の人間科学	2008/02/02
福祉人材/報酬-待遇の部屋	2010/02/18	100のチェックポイント	2006/01/02
選んだ場所で誇りをもって	2012/01/30	少子化・子育て・教育の部屋	2009/08/07
雑居部屋の部屋	2010/10/24	千葉・ちいき発	2008/06/23
ホスピスケアの部屋	2006/05/20		
福祉の町・秋田県鷹巣町がつり上げたもの-失ってしまったもの	2012/02/20		
認知症ケアの部屋	2011/09/18	倫理と変革の部屋	2012/05/27
自立生活の部屋	2007/02/02	医療福祉ジャーナリズム分野 修士・博士コースへのお誘い	2010/12/19
福祉用具の部屋	2009/12/08	メディアの部屋	2010/07/05
精神医療福祉の部屋	2011/03/28	メディアと冤罪の部屋	2012/02/20
障害福祉政策・意欲の部屋	2006/05/20	写真帳から(pictures)	2002/01/01
インフォームド・コンセントの部屋	2007/07/19	目からウロコのメッセージの部屋	2010/05/16
医療費と医療の質の部屋	2012/05/13	シンポジウムの部屋	2011/09/05
たばこの部屋	2009/12/04	"秘蔵"資料の部屋	2005/12/02
くすりの部屋	2009/08/23	障害差別をなくすための海外資料翻訳の部屋	2007/05/13
医療事故から学ぶ部屋	2011/02/07	卒論・修論の部屋	2011/08/18
患者体験者と遺族に学ぶ部屋	2007/11/20	世界とどこかわれば	2010/09/13
縁を結ぶ会とははじめ 2001	2002/02/22		
ことしもまた、縁を結ぶ会02~12	2012/05/27		
えにし-インタビュー	2004/04/03		
		らうじ・えにし	2011/12/31
		えにしの本のエッセンス	2011/01/24
		ゆきの部屋	2010/05/16
		えにしの人々の組織にリンク	
		えにしの人々のページにリンク	2011/01/11
		お役に立ちそうなリンク	

医療福祉ジャーナリズムが本来の使命をはたすために大切なのは

虫の目・鳥の目・歴史の目・疑う目

そして、想像力・度胸・誇り



8月31日(土)

福祉と医療・現場と政策の新たなえにしをむすぶつどい

## Part I Disease mongering

★佐藤 嗣道さん「サリドマイド被害児が薬剤疫学の専門家になって薬害を防ぐ」

★宮岡等さん「医師と製薬メーカーの利益相反～歴史をたどると」

★井艸恵美さん「学校から薬を勧められる「発達障害」のこどもたち」

☆進行役 河野礼子さん

part II 精神医療と認知症のパラダイムをひっくり返したおふたり★★

★長野敏宏さん「街から精神病院をなくして、アボガドの森と宿に」

★丹野智文さん「一歩踏み出すと人生変わるよ 認知症当事者はいま」

☆進行役 雨宮由紀枝さん

# えにしの会 ことはじめ



福祉と医療・現場と政策の「新たなえにし」を結ぶ会  
鼎談「ほんまに みんなで考えたい  
人の福祉（しあわせ）」



いまはNHKバリバラでお馴染みの  
玉木せん、きょう13日は大津で  
糸巻一雄記念賞受賞中です



←同期のお二人

2005

もとはといえば、朝日新聞⇒阪大の ゆきを励ます集い  
それが、盛り上がり、翌年から  
「出会う→変える、をシステムにする  
「新たなえにしを結ぶ会」に

2001